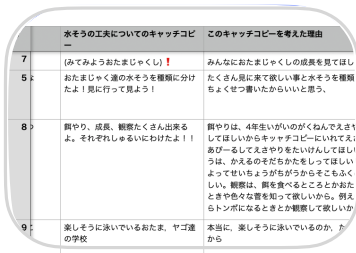


キャッチコピーで伝えたいことを明確に

子どもたちは教室で飼育している「オタマジャクシ」を全校のお友だちに見に来て欲しいと思いました。そこで、ポスターを作ることにしました。自分が全校のお友だちに伝えたい「オタマジャクシを見に来て欲しいポイント」を考えました。子どもたちが考えていく中で「みんなに伝えたいけれど、難しいから考えて欲しい」と訴える子どもがあらわれました。そこで水槽の工夫について考えていたこの子のために、みんなで考え合いました。



①「水槽のレイアウトの工夫についてのキャッチコピーを考えているけれど、難しいのでみんなで考えてもらいたい。」という子の思いを、先生は取り上げました。



②水槽のレイアウトの工夫についてのキャッチコピーと、そのキャッチコピーを考えた理由をNumbersに書き込みます。



③Numbersのスプレッドシートは「共同制作」のモードで一斉に配布されます。配布はアップルのスクールワークで行います。



④iPad上で友だちの考えを吟味します。自分の考えたキャッチコピーについて、友だちの書いた考えと比較していきます。「自分と似ている意見が見つかるかな?」「グループに分けるといくつくらいあるかな。」と先生が問いかけます。



⑤友だちの考えを参考にして、自分の書いたキャッチコピーをより良いものにしていきます。

参考にした人の名前と、このキャッチコピーを考えた理由も記入します。



⑥水槽のレイアウトの工夫についてのキャッチコピーをみんなで考えました。次回は自分の伝えたいと思っているキャッチコピーをより良いものにしてポスターを作ります。

その時に、今日の工夫を参考にしていきたいでしょう。

西春近北小学校 4年 日向彩由香 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました。

西春近北小学校の日向先生には「学校CIO研修会」のために授業を提供していただきました。参加された校長先生の感想をいくつか紹介させていただきます。

「教えていない」先生の姿に感銘を受けました。児童は他の児童から学んでいました。離れた席も含め全員の考えを見ることができる、音声と違って何度でも確認できる、ICTがあるから可能になることが実現されていました。児童自身が学んでいるからこそ、それぞれが自分の学びを振り返り、気づき等を言語化する（教師もそれを確かめる）ことが非常に重要になると感じました。

機器の扱いについて、本当に道具（ツール）としてICT機器を使いこなしていただければと思います。

子どもたち同士の共有、先生の支援、子どもたち同士による情報交換、教師主導で教えるのではなく子どもたちが主体的に学ぶ姿がみられました。

Numbersは、自分が入力すると同時に友だちの考えも見られ、その場で、友だちの考えを参考に自分の考えをまとめている姿があり、いいなと思いました。キャッチコピーとはどんなものか、キャッチコピーの良さとは何かをクラスで共有しておく、自分でも考えやすかったり、友だちの工夫にも気づけたと思いました。

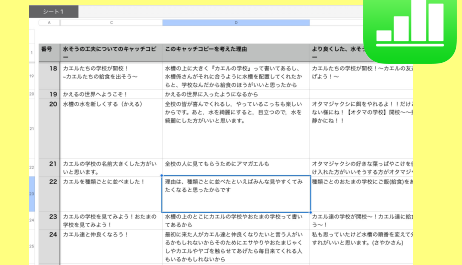
友だちの考えをじっくり集中して見ていた姿が印象的でした。発言だと聞いていない子どももいたり、聞き取れなくて過ぎてしまう子どももいたりするので、書いてあるものを読むことは、友だちの考えを知ることとして効果的であると思いました。

※「学校CIO研修会」の様子は「ICT活用教育」NO55に掲載しますので合わせてご覧ください。

スクールワークを使って教材の配布や共同制作をスムーズに

スクールワークを使うと教材の配布を行ったり児童生徒の進捗状況を確認することができます。

また、Pages、Numbers、Keynoteでの共同制作をスムーズに行えるようになります。



スクールワークを使って、Numbersで作られた自分の意見を記入するシートが配布されました。